

## 血液内科

### ■ スタッフ

科長		片山 直之
副科長		榎屋 正浩
医師数	常 勤	8 名
	併 任	5 名
	非常勤	4 名

### ■ 診療科の特色・診療対象疾患

#### 1. 治療方針

血液内科では、あらゆる血液疾患に対する診断と治療を行っています。治療方針に関しては、標準治療法はもとより科学的根拠に基づく最新の治療法にいたるまで患者さんと相談し、個々の患者さんの病状に応じた最善の治療を提供できるよう心がけています。また血液疾患の研究を行い、その成果を三重県内外の患者さんに還元できるよう努めています。

当科病棟は、26床中、18床が最新かつ県内最大のクリーンフロアからなり、16床の準無菌治療室および2床の無菌治療室を備えております。さらに11階と病棟としては最上階にあり、各病室から伊勢湾や鈴鹿山系の山々を一望できるなど快適性も備えています。また患者さんが安心して治療に専念できるよう、スタッフ一同協力して患者さんやご家族のサポートを心がけています。

#### 2. 主な診療対象疾患

##### 幹細胞・白血病分野

白血病（急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病）や骨髄不全症候群、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍の診断・治療を行っています。

##### リンパ系腫瘍分野

悪性リンパ腫および多発性骨髄腫を中心とし、原発性アミロイドーシス、その他良性のリンパ増殖性疾患を対象に診療しています。

##### 血栓・止血分野

当院には全国に先駆けて血栓症・止血異常症診療センターが設置されており、他の診療科、中央検査部、オーダーメイド医療部、輸血部などのスタッフと協力して血栓・止血異常症の診療を行っています。

### HIV感染症・AIDS

HIV感染症治療においては、三重県の中核拠点病院として、多職種で協力して診療を行っています。

### ■ 当科スタッフの取得専門医

日本内科学会専門医・指導医、日本血液学会専門医・指導医、がん薬物療法専門医、日本輸血・細胞治療学会認定医など

### ■ 診療体制と実績

2014年1月1日から12月31日までの外来初診患者数は360例、入院患者数は125例でした。入院患者の疾患内訳は次の表の通りです。

2014年 血液内科入院患者内訳

病名	新患	合計
悪性リンパ腫	28	45
急性骨髄性白血病	8	15
多発性骨髄腫	3	10
慢性骨髄性白血病	6	8
骨髄バンクドナー	6	6
急性リンパ性白血病	3	6
骨髄異形成症候群	2	5
後天性免疫不全症候群	1	5
免疫性血小板減少症	3	5
再生不良性貧血	2	3
血友病	2	3
慢性リンパ性白血病	1	3
血縁者間ドナー	3	3
急性ヒトT細胞性白血病	1	2
組織球肉腫	1	1
血栓性血小板減少性紫斑病	1	1
薬剤性血球減少	1	1
原発性骨髄線維症	0	1
骨髄癌腫症	1	1
慢性好酸球性白血病	1	1
合計症例数	74	125

## ■ 診療内容の特色と治療実績

・造血器腫瘍、骨髄不全症候群に対する化学療法、分子標的療法、分化誘導療法、抗体療法、免疫抑制療法、放射線治療：

患者さんの病状に応じて、これらの治療法を組み合わせる最適な治療を行います

・白血病やリンパ腫に対するより良い治療を開発するための臨床研究：

日本成人白血病研究グループ (JALSG)、日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG)、名古屋BMTグループ (NBMTG) に参加しています。

また、当科発の医師主導型臨床試験として、日本人の初発慢性期慢性骨髄性白血病に対するダサチニブの服薬アドヒアランスに関する臨床研究

(ADAM-01)、未治療CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するDose-adjusted EPOCH-R / HD-MTX療法の第二相試験 (PEARL5) を行っています。

・造血器腫瘍および骨髄不全症候群に対する造血幹細胞移植：

骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植のいずれにも対応し、骨髄非破壊的前処置を用いた移植 (ミニ移植) も行います。2014年の移植件数は、同種移植が12件、自家移植が1件でした。

・骨髄増殖性腫瘍における遺伝子検査

JAK2V617F、JAK2 exon 12、CALR、MPL変異解析をオーダーメイド医療部の協力を得て院内で行っています。

・播種性血管内凝固症候群・血栓性血小板減少性紫斑病・特発性血小板減少性紫斑病など血栓・出血性疾患の診断と治療

・血栓性素因 (プロテインC・プロテインS・アンチトロンビン欠乏症・抗リン脂質抗体など) の診断、血栓症予防および治療

・血友病の在宅注射指導と包括医療

小児科・整形外科など他科と連携しています。

いずれの分野の疾患においても、個々の患者様に最善の医療が提供できるように、三重県内全域にわたる関連病院の血液内科と連携をとりながら、診療をおこなっております。

セカンドオピニオン相談も受け付けておりますので、ご希望の場合は、当院の医療福祉支援センターにご連絡の上、セカンドオピニオン相談予約をおとりください。

## ■ 臨床研究等の実績

2014年 臨床研究登録実績

- ・未治療のCD20陽性びまん性大細胞型Bリンパ腫に対するR-CHOP療法におけるRituximabの投与スケジュールの検討を目的としたランダム化第II/III相試験 (JCOG0601)： 7例
- ・未治療CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するDose-adjusted EPOCH-R/HD-MTX療法の第II相試験 (PEARL5 study)： 6例
- ・同種造血幹細胞移植後長期生存者における晩期合併症ならびにQuality of Lifeに関する観察研究： 3例
- ・原発性骨髄線維症及び真性多血症又は本態性血小板血症から移行した骨髄線維症の患者を対象としたJAK阻害薬Ruxolitinib (INC424)の非盲検、多施設共同、臨床試験： 3例
- ・高齢者または移植拒否若年者の未治療症候性骨髄腫患者に対するmelphalan+prednisolone+bortezomib (MPB) 導入療法のランダム化第II相試験 (JCOG1105)： 2例
- ・イマチニブで分子遺伝学的完全寛解を2年間以上維持した慢性期の慢性骨髄性白血病に対する薬剤中止試験 (JALSG-STIM)： 2例
- ・染色体・遺伝子変異が成人急性骨髄性白血病の予後に及ぼす影響に関する臨床研究 (AML209GS)： 1例
- ・日本人の初発慢性期慢性骨髄性白血病に対するダサチニブの服薬アドヒアランスに関する臨床研究 (ADAM)： 1例
- ・骨髄不全症候群および発作性夜間ヘモグロビン尿症(PNH)疑い症例におけるGPIアンカー膜蛋白欠損血球の保有率とその意義を明らかにするための観察研究： 1例
- ・CBD療法を寛解導入療法とする自己末梢血幹細胞移植の初発多発性骨髄腫に対する有効性と安全性の検討： 1例
- ・本邦における原発性骨髄線維症の臨床像に関する研究： 1例
- ・好酸球増加症候群(HES)に対する診断・治療法確立に関する臨床試験： 1例

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)